

鬼怒川中島橋周辺の植物目録 III. 木本類 (裸子植物・園芸植物 他)

The List of Plants on the Banks of Kinu River around the Nakajima Bridge III. Woody Plants — GYMNOSPERM, ORNAMENTAL PLANTS, etc. —

上村 孝 ・ 浦田 克郎
Takashi UEMURA and Katsuro URATA

小山工業高等専門学校 Oyama National College of Technology

1. はじめに

鬼怒川は栃木県を代表する一級河川であり、これまでも植物に関する調査・研究が、長谷川(1982)・宇都宮市(1992)・真岡市(1993)・吉川(1995)らにより報告されてきたが、茨城県境に至る地域に関しては小山市(1998)の自然調査報告書に扱われているにすぎない。著者らは、以前より動植物の基礎的な総合調査を続けてきており、前報の木本類および草本類(2003)に続き、裸子植物・園芸品種の木本類および一部木本類として扱われない矮小低木について確認出来た樹種の目録をまとめた。

2. 調査地の概要および調査法

調査地は「調査地域の地図」に示した栃木県小山市と茨城県下館市の県境にあたる中島橋を中心に、約4km上流の大道泉橋(だいどういずみばし)と約2.5km下流の新川島橋(しんかわしまばし)の間とした。また護岸工事によって作られた東西兩岸の土手周辺から流水域にかけて、一部民家を除く全域にわたって木本類の樹種を調査した。また、一部地権者の方々から聞き取り調査も行い調査期間以前の状況について情報を得た。

栃木県小山市・芳賀郡二宮町および河内郡南河内町、それに茨城県下館市におよぶ地域である。ただし、中島橋下流東岸地域は砂利採石場や工場の敷地となっていて、一部しか調査が出来なかった。

調査地内には現在も畑地や一部果樹園・桑畑が

点在する。戦前までは肥沃な河川敷の土壌を利用した農耕地が広がっていたが、現在では中島橋周辺の西岸および上流の東岸一部に沿って、利用されなくなった地域が放置され半世紀以上の時を経て、人為的に植栽された樹木と竹林・自然林とが混じり合い鬱蒼とした帯状の樹林帯を形成している。

流水域に近い場所では、ここ数年の間でも1998年8月末の台風4号(那須の大洪水)や2001年9月11日の台風15号により河川の様相は大変貌を遂げ、植物層に大きな影響(攪乱)を与えてきた。古くは、1947年9月16日(カスリーン台風)の際には堤防が決壊し、多くの死者及び行方不明者をだしており、以後の治水事業はこの時の状況を超えない基準で設計されている。

鬼怒川本流に流入する支流河川は江川と田川の二河川が有る。西方をほぼ平行に流れる田川は、その水位によって舟戸水門からの放水量が自動的に制御されており、大道泉橋の下流約2.5kmの西岸で合流している。洪水時の舟戸水門からの放水量によって下流西岸域の停水帯植物は大きな影響を受けていて、1998年の台風4号までは、河川の中州に樹齢20年以上と推定される樹木が見られたが、現在では全く見当たらなくなっている。

中島橋上流域においては、西岸の石掛け崩壊の補修を兼ねて、本流の流れを一端東側に変える大規模な河川改修工事が2003後期～2004年春にかけて行われ、現在一部は水辺公園としての整備が進んでいる。



調査地域の地図

目録作成に当たった調査期間は2001年1月より2004年8月の間約70回の調査で、樹種の確認が困難な個体は、冬芽・花序・果実等の確認によって同定を行った。

3. 木本目録と調査結果

前報では主に平凡社の「日本の野生植物・木本Ⅰ・Ⅱ」を基本として「被子植物」に限りまとめた。本報では、平凡社の同図鑑を主に「裸子植物」の目録を作成した。しかしその他の園芸植物として移入され野生化した種や、矮小低木に関する基準やその和名・学名についても図鑑によって極めて曖昧である為、上記の平凡社および北隆館の「牧野新日本植物図鑑」の二種類を基本としたものの、近年出版された多くの樹木図鑑(参考文献参照)を参考にして目録をまとめた。

和名の表記は、上記の図鑑等を参考に、一般的に用いられている名前を括弧内に併記した。

3.1 中島橋上流～大道泉橋

大道泉橋下流東岸に於いては、昭和三十年代初頭、砂防・生垣を目的に一部イタチハギを植栽した経緯があるとの事で、本種は調査地域全体で見られるものの、二宮町の長沼～西大島地区には極めて高い頻度で分布している。

新大道泉橋(大道泉橋より約600m下流)の工事が～2003年に行われ、現在橋桁のみ完成した状態で工事は休止している。この間、本来の流路を変えて土砂を掘り返す大規模な工事がなされた為に、停水帯周辺のヤナギ類を中心とした低木はほとんど無くなっている。

大道泉橋より約2km下流東岸の雑木林(二宮町大字西大島)に於いては、国土交通省関東地方整備局の許可の元に「酪農とちぎ農業協同組合」に、2003年2月より2013年3月31日までの期間、「採草地」としての利用が許可され、58,341㎡にわたって雑木林が開墾された。2004年8月には1回目の刈り取りに到っている。尚、開墾され草地として利用されている地域の縁部に於いて、木本類ではニワウルシだけが鬱蒼と芽を出し一次林を形成する勢いである。

大道泉橋下流西岸に於いては、田川から舟戸水門を経て鬼怒川本流に合流する地域一帯(七ッ橋周辺)には、昭和三十年代まで広く果樹園(主に桃畑)

が広がっていたが、洪水の度に最も影響を受ける一帯であり、現在は当時の面影を見る事は出来ない。この周辺には、全く人の管理の手が入る事も無く鬱蒼と茂った極めて多くの種類から成る樹林帯が上流部から続いている。特にシロダモの群落が多く見られるが、小山市近隣では珍しい植生状況である。

中島橋より約 2 km 上流で川幅が最も広くなる(東西の土手の距離約 400 m)。この地域の東岸(二宮町上江連)では通年停水帯の状態を呈していて、ヨシやススキ・オギの群落の中に多種のヤナギ類を中心とした樹木が繁茂しており、ヨシ原を好む水鳥にとって格好の生息地となっている。洪水の際も激しい流れが入り込む事もなく、独特な湿地性低木域となっている。周辺には農業にかかわる人が立ち入るだけで、一般の人達の出入りはほとんど無い。

3. 2 中島橋下流～新河島橋

中島橋下流西岸の不安定帯(洪水時には水に浸かる地域)には、近年洪水の際も激流が流れ込む事は無く、ヤナギ類が鬱蒼とした帯状群落を形成している。以前水面が広がり池状であった場所も消失した。このまま成長し続けた場合、治水面での危険性も考えられる。また一段高い安定帯には、年々ニワウルシとヌルデが繁茂してきて、一部は 10 m 近い樹高の群落も見られる。

中島橋下流の河川ほぼ中央部に、約 1.5 ヘクタール程のハリエンジュの群落が有ったが、国土交通省の河川整備事業によって 2002 年に除去された。治水の観点から考えて仕方ない事かもしれない。しかし切り倒したのではなく、重機によってなぎ倒した状態であった為、現在この群落は復活しつつある。

中島橋下流約 1 km 東岸には、1998 年 8 月末の台風 4 号で川の流れが大きく変わり、砂礫による河原ができ、わずか 2～3 年のうちに多くの草本類が生い茂り、アカメヤナギを優占種とするヤナギ類が多く点在する河原となった。しかし、2001 年 9 月 11 日の台風 15 号により、この河原は全て消失した。周辺のヤナギ類の分布をみても、アカメヤナギは安定帯に近い位置にしか高頻度で見られなくなった。

植 物 目 録 (裸 子 植 物)

種子植物門 SPERMATOPHYTA

裸子植物亜門 GIMNOSPERMAE

ソテツ綱 CYCADOPSIDA

イチヨウ目 GINKGOALES

イチヨウ科 GINKGOACEAE

イチヨウ属 *Ginkgo* L.

イチヨウ *G. biloba* L.

球果植物綱 CONIFEROPSIDA

球果植物目 CONIFERALES

マツ科 PINACEAE

マツ属 *Pinus* L.

クロマツ *P. thunbergii* Parlatores

アカマツ *P. densiflora* Sieb. et Zucc.

スギ科 TAXODIACEAE

スギ属 *Cryptomeria* D. Don

スギ *C. japonica* (L. fil.) D. Don

ヒノキ科 CUPRESSACEAE

ネズミサシ属 *Juniperus* L.

ビャクシン (イブキ・カイヅカイブキ)

J. chinensis L.

ヒノキ属 *Chamaecyparis* Spach

ヒノキ *C. obtusa*

(Sieb. et Zucc.) Endl.

サワラ *C. pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endl.

アスナロ属 *Thuja* Sieb. et Zucc.

アスナロ *T. dolabrata* Sieb. et Zucc.

イチイ綱 TAXOPSIDE

イチヨウ目 TAXOPSALES

イチイ科 TAXACEAE

カヤ属 *Torreya* Arnott

カヤ *T. nucifera* (L.) Sieb. et Zucc.

以上裸子植物 5 科・7 属・9 種の確認ができた。

植物目録 (園芸植物・矮小低木)

種子植物門 SPERMATOPHYTA

被子植物亜門 ANGIOSPERMAE

双子葉植物綱 DICOTYLEDONEAE

離弁花亜綱 CHORIPETALAE

モクレン目 MAGNOLIALES

モクレン科 MAGNOLIACEAE

パンレイシ科 ANNONACEAE

アシミナ属 *Asimina* L.

パウパウ (ポーポー・ポポー・アシミナ)

A. triloba (L.) Dunal

キンポウゲ目 RANUNCULALES

メギ科 BERBERIDACEAE

ツツラフジ科 MENISPERMACEAE

アオツツラフジ属 *Cocculus* DC.

アオツツラフジ *C. trilobus*

(Thunb. ex Murray) DC.

バラ目 ROSALES

バラ科 ROSACEAE

トキワサンザシ属 *Pyracantha* L.

タチバナモドキ (ホソバナトキワ

サンザシ) *P. angustifolia* SC. K. Schneid.

サクラ属 *Prunus* L.

ハナモモ *P. persica* Batsch

バラ属 *Rosa* L.

セイヨウバラ *Rosa* × *borboniana* Desp.

ナシ属 *Pyrus* L.

ナシ *P. pyrifolia* (Burm.f.) Nakai

var. *culta* Makino

マメ科 LEGUMINOSAE (FABACEAE)

イタチハギ属 *Amorpha* L.

イタチハギ (クロバナエンジュ)

A. fruticosa L.

コマツナギ属 *Indigofera* L.

コマツナギ *I. pseudo-tinctoria* Matsum.

ハギ属 *Lespedeza* L.

ヤマハギ *L. bicolor* Turcz.

マルバハギ *L. cyrtobotrya* Miq.

ミカン目 RUTALES

センダン科 MELIACEAE

チャンチン属 *Toona* A.juss.

チャンチン *T. sinensis* (A.juss.) M. J.

Roem. (*Cedrela sinensis* A. Juss.)

フトモモ目 MYRTIFLOAE

ザクロ科 PUNICACEAE

ザクロ属 *Punica* L.

ザクロ *P. granatum* L.

シソ目 TUBIFLORAE

ノウゼンカズラ科 BIGNONIACEAE

キササゲ属 *Catalpa* Scop.

アメリカキササゲ *C. bignonioides* Walter

単子葉植物綱 MONOCOTYLEDONEAE

ユリ目 LILIFLORAE

ユリ科 LILIACEAE

シオデ属 *Smilax* L.

サルトリイバラ *Smilax china* L.

4. まとめ

以上、前報にまとめた「被子植物」とあわせて、27 目 52 科 100 属 156 種の木本類を確認した。

本報で扱った園芸植物や矮小低木はわずかな生育環境の変化(例えばその年の気候と定期的な草刈り等)によってなかなか定着種となれない場合も多く、今後も種数の増減が予想される。

今回の調査地域に関しては、地場産業である養蚕業とのかかわりで、停水帯から安定帯にいたる幅広い環境下でのクワ(ヤマグワ)の分布が特徴的であった。また、不安定帯と安定帯の境界にはヤナギ類とニワウルシ・ヌルデと云った特定の種類に限られていく可能性も見て取れる。

木本類の調査に於いて、特別に貴重な種類や生息環境を見いだす事は出来なかったものの、今後とも調査を続けていく予定であり、植物以外の生物

調査も現在継続中である。

エノキ・クヌギ・コナラと云った木も比較的多く、最近減少の一途をたどる国蝶のオオムラサキやゴマダラチョウが大発生する事も有る。キツネやタヌキと云った大型ほ乳類も生息しているし、鳥類にいたっては稀少種の観察例も少なくない。

近年小山市の街作り・将来構想の一部として、思川と鬼怒川流域を自然ふれあいゾーンとして整備を進めていく計画が進みつつある。今後、我々の総合的な生物調査の資料が、身近な自然環境の保護や有効利用の為の基礎データとなるように期待したい。

上村 孝・浦田 克郎 2003

鬼怒川中島橋周辺の植物目録Ⅰ

小山高専研究紀要 第35号:15-20

浦田 克郎・上村 孝 2003

鬼怒川中島橋周辺の植物目録Ⅱ

小山高専研究紀要 第35号:129-134

日本の樹木 2003 成美堂出版

樹木見分けのポイント 2003 講談社

栃木県 2003 栃木県自然環境基礎調査

とちぎの植物Ⅰ・Ⅱ

木の花 2004 成美堂出版

「受理年月日 2004年9月30日」

参 考 文 献

富成忠夫 1979 野外ハンドブック6・7

山と溪谷社

長谷川順一 1982 栃木県の植生と花

自然ガイド小山の樹木 1983 小山市教育委員会

山溪カラー名鑑日本の樹木 1985 山と溪谷社

原色樹木図鑑Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 1986 北隆館

改訂増補「牧野新日本植物図鑑」1989 北隆館

日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ 1989 平凡社

長谷川順一 1992 栃木県植物分布資料(1).

フロラ栃木 1:2-7

宇都宮市 1992 宇都宮市自然環境基礎調査報告書

真岡市動植物実態調査研究会(編) 1993

真岡市の動植物. 43-178

吉川 誠 1995 二宮町鬼怒川河川敷の植物

フロラ栃木 4:32-41

栃木県植物目録1996 1996 栃木県植物研究会

永田芳男 1997 樹木(春夏編)

山溪フィールドブックス⑩

永田芳男 1997 樹木(秋冬編)

山溪フィールドブックス⑪

小山市 1998 小山市鬼怒川自然調査報告書

菱山忠三郎 1999 街の樹木観察図鑑 成美堂出版

岩瀬徹 2000 野山の樹木 成美堂出版

石井英美他 2000 樹に咲く花離弁花① 山と溪谷社

太田和夫他 2000 樹に咲く花離弁花② 山と溪谷社

城川四郎他 2001 樹に咲く花合弁花他 山と溪谷社

清水矩広・他 2001 日本帰化植物写真図鑑

全国農村教育協会

